

53 狛江の蛍

文化



受賞者：赤羽 眞 さん
 推薦者：谷田部 田美子 さん

【推薦コメント】

「狛江ではほとんど見る事ができなくなった蛍を自分の手で育てて、子どもたちに見せてあげたい」という思いで蛍を育てている赤羽さん。20年は経つでしょうか。ご自宅の庭に池を作り設備を整えて試行錯誤。失敗しては改良を重ね、今では「狛江の蛍のおじさん」としてりっぱに育った蛍を近隣の小学校の子どもたちにご披露したり、多摩川の水辺の楽校で子どもたちと一緒に川に放したり、たった1週間から2週間の短い蛍の命を輝かすために、赤羽さんの1年間のご苦労があります。

シーズンが来るとご近所の方に声をかけてくださいます。赤羽さんお手製の飼育箱のなかで400匹以上の蛍が乱舞します。それはまるで夜空の星屑—ギャラクシーです。多摩川で自然に飛び交う蛍にも憧れていますが、今はこれが狛江の蛍なんだなぁと感慨ひとしおです。

【講評】

夏の風物詩となっている蛍。きれいな水のある所等さまざまな条件が揃わなければお目にかかることが出来ないものですが、そんな蛍を狛江で見ることが出来るように20年近くに渡ってご尽力されている赤羽さんのご努力、また蛍への愛情は、狛江の誇るべき心です。蛍を通じて、地域や子供たちの笑顔を支えていただいている点、また、自然の復活を願い、都市から消えた蛍の復活に対する多大な苦労と熱意に敬意を表し、更に、今後環境にやさしいまちづくりのスポットとなってほしいといった期待も込めて今回選定しました。